

公益社団法人 日本グラウンド・ゴルフ協会

昭和58年 7月27日 創立
平成 6年11月10日 法人認可
平成 7年 3月14日 財団法人日本体育協会加盟
平成22年11月 1日 公益社団法人移行

1. 目的

この法人は、我が国におけるグラウンド・ゴルフ界の統括に関する事業を行い、これを代表する団体として、グラウンド・ゴルフの普及振興を図り、もって国民の体力の向上、心身の健全な発達と生涯スポーツの振興に寄与することを目的とする。

2. 組織

(1) 職員数 4名(常勤・正規)

(2) 役員数

理事 19名

		外部理事	女性理事
常勤理事	1名	1	0
非常勤理事	18名	6	4

* 理事の構成年齢

50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
3	4	8	4

監事 2名

会計監査人 2名

(3) 役員の再任回数又は在任期間の制限に係る規定の有無 【無】

(4) 役員の年齢制限や定年に係る規定の有無 【無】

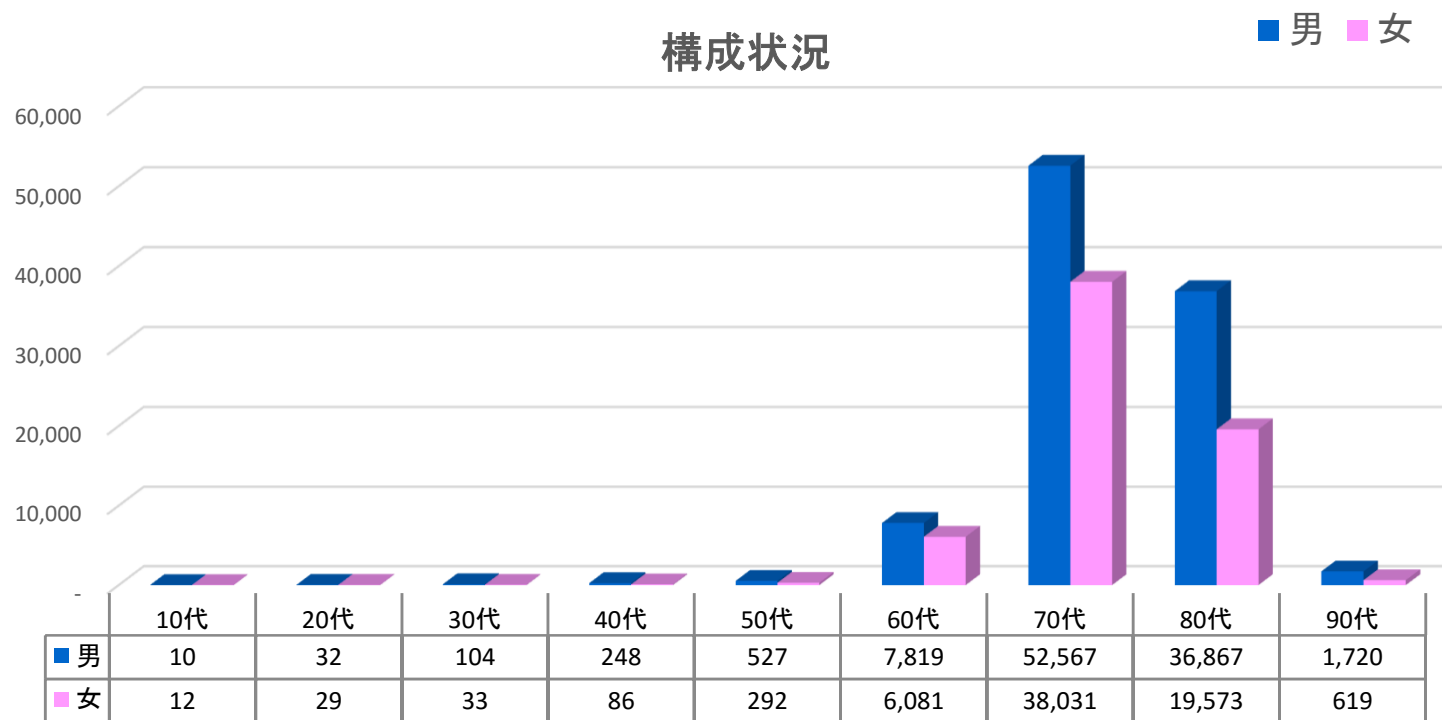
3. 平成30年度予算

約2億200万円

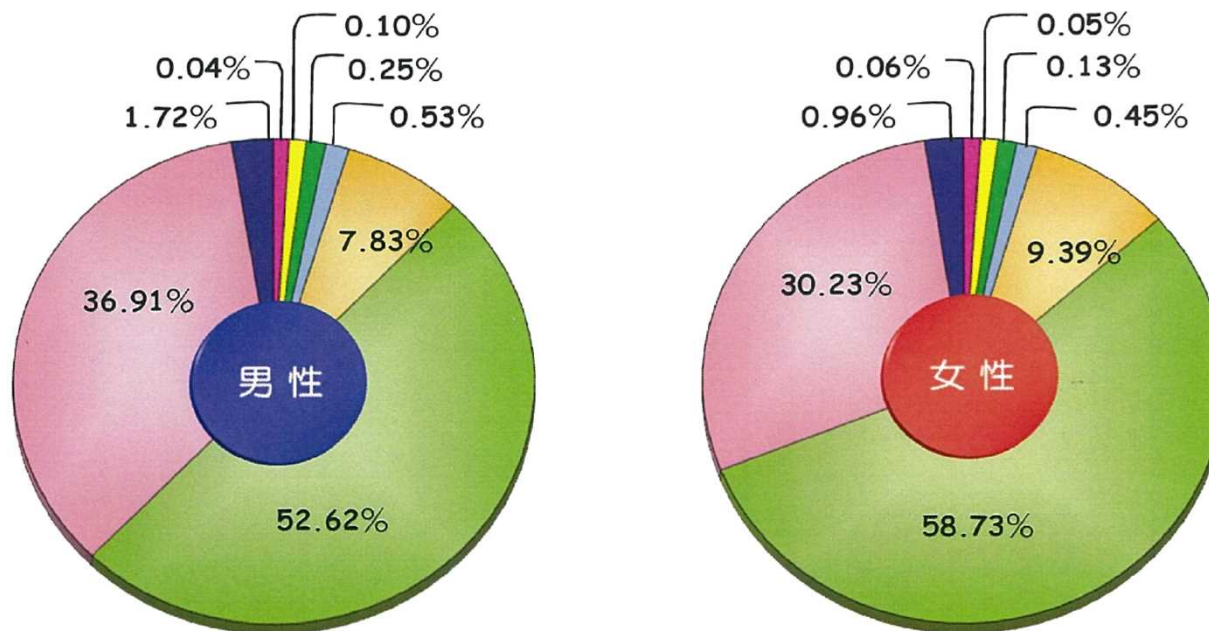


4. 登録会員者数

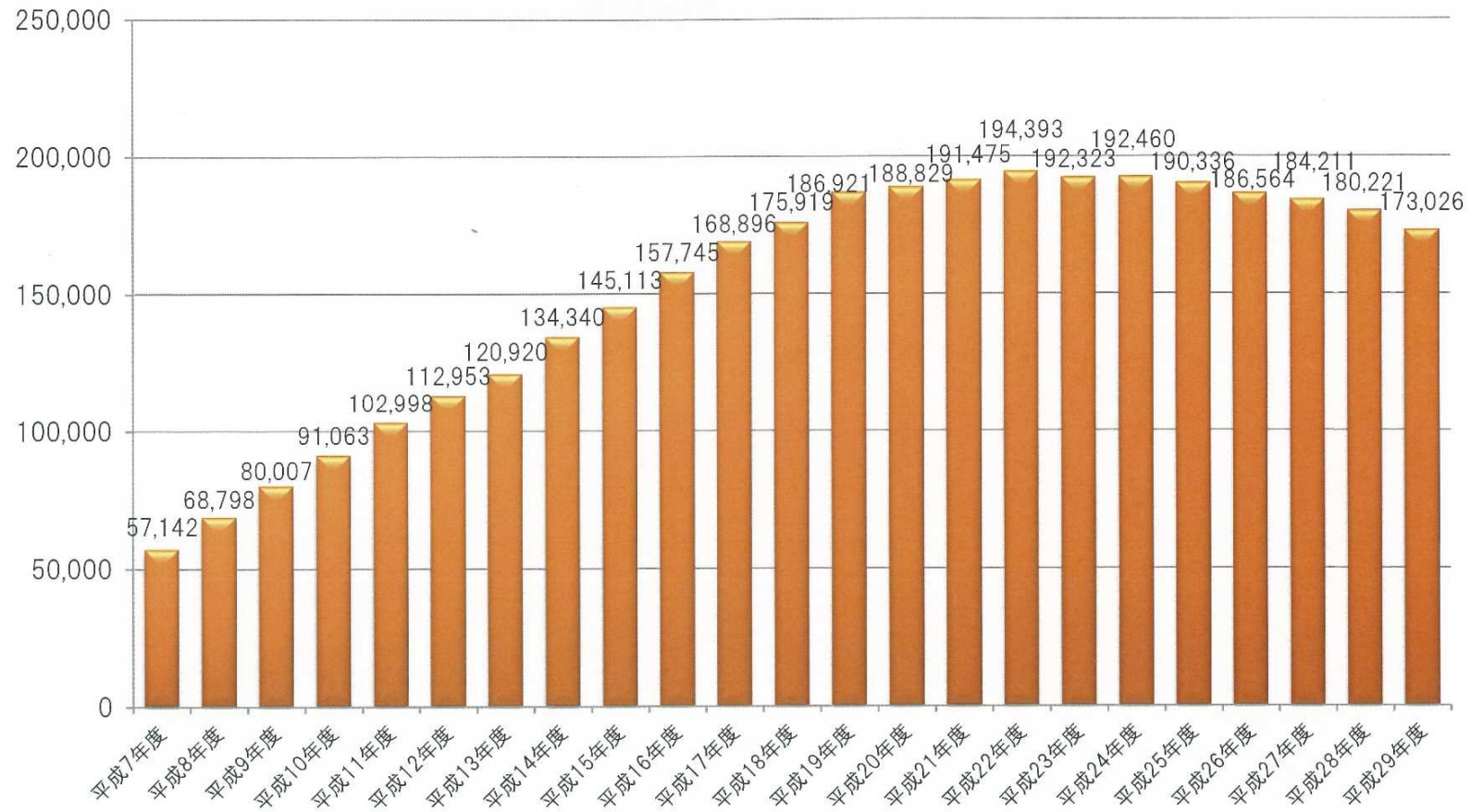
約16万5千人（平成31年2月20現在）



會員構成狀況



登録会員推移



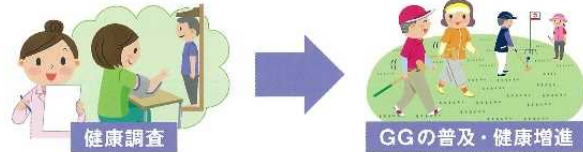
【参考】

『グラウンド・ゴルフ』が健康に及ぼす効果について

(公社)日本グラウンド・ゴルフ協会では、平成27年度にグラウンド・ゴルフ愛好者と一般の方の身体特性や移動機能などの健康調査を実施しました。今回、調査した結果の概要をご報告いたします。

1 目的

本調査はグラウンド・ゴルフがプレーヤーの健康に及ぼす効果や影響などについて学術的な研究を行うことにより、グラウンド・ゴルフが社会的に果たしている意義・役割を特に健康面から明らかにし、グラウンド・ゴルフの今後一層の普及推進に資することを目的としました。



2 対象者

グラウンド・ゴルフ愛好者として、平成27年度に1級及び2級普及指導員養成講習会へ参加し、調査に賛同いただいた方にご協力いただきました。グラウンド・ゴルフを行わない対照群として、愛好者と同年代の一般高齢者の方にもご参加いただきました。

対象者の内訳と身体的特性は右の通りです。

グラウンド・ゴルフ(GG)愛好者 266名(男性:175名、女性:91名)
 一般高齢者 259名(男性:122名、女性:137名)
 合計 525名(男性:297名、女性:228名)

		GG愛好者	一般高齢者	
男性	年齢(歳)	73.5 ± 0.4	72.5 ± 0.5	
	身長(cm)	163.2 ± 0.5	163.8 ± 0.6	
	体重(kg)	63.6 ± 0.6	64.1 ± 0.8	
	BMI(kg/m ²)	23.7 ± 0.2	23.7 ± 0.2	
	収縮期血圧(mmHg)	147.7 ± 1.7	147.9 ± 1.9	
女性	年齢(歳)	72.9 ± 0.5	73.2 ± 0.5	
	身長(cm)	150.7 ± 0.5	151.5 ± 0.5	
	体重(kg)	52.5 ± 0.8	52.4 ± 0.6	
	BMI(kg/m ²)	23.0 ± 0.3	22.7 ± 0.2	
	収縮期血圧(mmHg)	144.2 ± 2.2	139.5 ± 1.8	
		拡張期血圧(mmHg)	82.7 ± 1.1	82.8 ± 1.2
		平均値±標準偏差		

公認団体法人 JGCA 日本グラウンド・ゴルフ協会

〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館5F
 TEL: 03-3481-2477 FAX: 03-3481-2478 ホームページ <http://www.groundgolf.jp>

3 調査項目

- 1) 身体特性 身長、体重、血圧、体脂肪、筋量、骨密度、肺活量、握力 (公社)日本グラウンド・ゴルフ協会 スポーツクター及び講習員によるロコモテスト、測定の様子
- 2) ロコモ度テスト 「立ち上がりテスト」「2ステップテスト」「ロコモ25」の3つのテストからなる身体機能、特に「立つ」「歩く」といった移動機能の評価を行いました(下の図を参照)
- 3) 生活習慣調査 喫煙歴/本数、飲酒歴、運動歴、運動種目、グラウンド・ゴルフ歴、心と体の不安感についての質問紙調査



図 ロコモ度テスト



ロコモ度テスト結果記入用紙



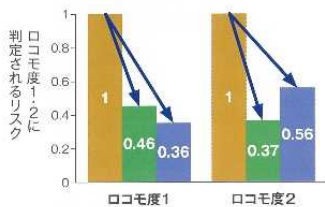
引用: ロコモ度テスト ロコモ チャレンジ! 推進協議会

ロコモテストって?

ロコモティブシンドロームとは、運動器(筋肉、骨、関節、神経など)の障害によって、移動機能(立つ・歩くなどの体の機能)が低下している状態を言いますが、進行すると介護が必要になるリスクが高まります。ロコモ度テストでは「立ち上がりテスト」「2ステップテスト」「ロコモ25」の3つのテストを通して、移動機能の状態を評価しました。

4 結果

- グラウンド・ゴルフ愛好者は一般高齢者と比較してロコモ度1・2に判定されるリスクが40%以上低くなっていました



ロコモ度1

体を支えたり、動かしたりするための運動器（筋肉・骨・関節・神経など）の機能が低下し始めている状態です。

ロコモ度2

体を支えたり、動かしたりするための運動器（筋肉・骨・関節・神経など）の機能が低下が進行している状態です。

引用：ロコモティブシンドロームのすべて、中村耕三、田中栄ら、日本医師会

- グラウンド・ゴルフ愛好者は一般高齢者と比較して歩幅が大きくなりました



■一般高齢者
■GG愛好者
■1回当たりのプレー時間2時間未満
■1回当たりのプレー時間2時間以上



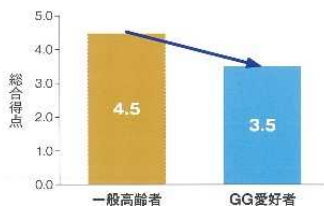
歩幅の減少は、△歩行速度の低下、△移動機能の鈍化、△転倒のリスク増加につながることから、高齢期に歩幅を維持することは、転倒予防に重要です！

- グラウンド・ゴルフ愛好者は一般高齢者と比較して心と体の不安感が少ないことが分かりました

心と体についての全13問の質問

全くない：0点、時々ある：1点
頻繁にある：2点、常にある：3点

総合得点を算出しました。
総合得点が高いほど心と体に対する不安感が多いとされています。



5 まとめ

今回の健康調査から、グラウンド・ゴルフ愛好者は一般高齢者と比較して以下の特徴があることが明らかとなりました。

① 移動機能の低下を表すロコモ度1・2に判定されるリスクが低い

移動機能が低下し始めている状態、もしくは移動機能の低下が進行している状態を表すロコモ度1・2に判定される人の割合が少ないことが分かりました。したがって、グラウンド・ゴルフを行うことによって移動機能が維持されていると考えられます。

② 転倒予防に必要である「歩幅」が維持されている

歩幅は下肢の筋力や転倒歴と関連していると言われています。大きく足を踏み出すには、片足で体を支える筋力や、バランス機能が必要です。グラウンド・ゴルフを行うことによって、1日当たりの歩数や身体活動量が増加し、下肢の筋力が維持され、立つ・歩くための移動機能が保たれていると考えられます。

③ 心と体の不安感が少ない

仲間とグラウンド・ゴルフを楽しむことで、人と接する機会が増えたり、体を動かす時間が確保されたりすることにより、心身に良い効果が表れたと考えられます。

今回の調査により、生涯を通じてグラウンド・ゴルフを楽しむことによってロコモティブシンドロームの予防や転倒の予防に繋がる可能性が高いことが明らかになりました。これらの結果からグラウンド・ゴルフを日常的に行うことにより、運動器が鍛えられ、心の健康も維持され“健康寿命の延伸”に繋がるのが期待されます。

今後、360万人もの愛好者がいるグラウンド・ゴルフが全国各地へさらに普及し、スポーツを通じた健康長寿社会の実現に役立つことが望まれます。



本調査の集計・分析を担当した方

日本グラウンド・ゴルフ協会副会長・スポーツドクター・東川島診療所 院長 三村圭美
日本グラウンド・ゴルフ協会スポーツドクター・目白大学保健医療学部 教授 佐藤広之
早稲田大学スポーツ科学学術院 准教授 宮下政司
東京学芸大学大学院教育学研究科 院生 柏原杏子

「スポーツ団体ガバナンスコードの策定に係る論点(案)」に対する見解

公益社団法人日本グラウンド・ゴルフ協会

日本グラウンド・ゴルフ協会(以下「日本協会」という)は、47都道府県グラウンド・ゴルフ協会(以下「地方協会」という)をもって構成されますが、その運営に関する基本的事項は地方協会から選出された委員による4つの専門委員会です。それぞれの所管事項について協議し、それを外部理事の意見も徴しながら 理事会で慎重審議し、最終的には地方協会会長を正会員とする総会において決定します。常に組織としての意志が反映されるよう自律的・自治的で公平・公正な運営を心掛けています。なお約16万5千人の会員を擁する日本協会の事業執行と事務処理は4名の女性事務職員が担っています。

スポーツ・インテグリティ一部会から示されました標題の論点(案)に列記されました各種規程の策定や体制の構築は、昨今、中央競技団体で生じている不祥事などからすれば十分に理解はできますが、すべてのスポーツ団体へこれだけ多岐にわたる事柄への対応を求めることは、少人数の職員で事務処理等に当たっている弱小団体にとりましては、過大な求めと受けとめざるを得ないように感じる点もあります。

スポーツ団体が守るべき行動規範を策定することに何ら異を唱えるものではありませんが、多様な組織 体制が存在する我が国のスポーツ界に相応しくしかもいずれの団体においても遵守できるガバナンスコードを委員の皆様の叡智を結集して策定していただきたいと思えます。

1. 組織運営に関する基本計画の策定

ここに列記されている項目を策定することは重要なことではありますが、全てのスポーツ団体に共通するものとも思われますので、モデル的なものを部会から示していただければ幸いです。

2. 理事の任期、再任回数の制限、定年制

日本協会が他のスポーツ団体と明らかに異なるのは、会員は70～80歳代が大半であることです。日本協会及び地方協会の役員構成、任期、定年にはそのことが強く反映されていることをご理解ください。

3. 理事構成の多様性

現在、外部理事は弁護士、医師、大学教授、行政経験者、企業出身者など多様な人材で構成しており、それらの方々の専門的知見を協会運営に生かしています。一方、全国の会員の意志を反映することも組織運営上重要なため、現在数程度の内部理事の選任は必要と考えます。

4. 役員の選出方法、適正な報酬

役員の公募については、これまで組織内での議論で必要性などが提起されたことはありませんが、そのことがスポーツ界での趨勢となれば検討することは有り得ます。報酬は総会で審議し適正な額を決定する規程となっています。

5. 組織運営等に必要な規程等の整備

現時点で現有の組織運営に関する規程以上のものの制定は考えていません。代表選手を選考することも実態としてありませんので、選手の権利利益を保護する規程の整備も必要性は感じません。

6. コンプライアンス委員会の設置

冒頭述べましたが、日本協会に委員会を新設して人員や予算を配分することには無理がありますので、既存の総務委員会(各委員会の議案を総括して理事会に諮る機関)に、その機能を託したいと考えます。

7. コンプライアンス教育の実施

多くの弱小団体の役職員等を対象としたコンプライアンス教育は、例えば、スポーツ庁やJSPO、JOCなどが共催で実施されるシステムを構築いただくのも一つの方途ではないかと考えます。

8. 法務・会計に係る事務体制の構築

法務・会計に係る問題が生じたときは、上記6と同様の対処をしたいと考えます。

現在、法務的なことは顧問弁護士、会計に関しては、会計事務所に日常的な経理処理を、そのチェックは委嘱している国家資格を有する税理士、会計士、会計監査人に託しています。いずれも専門家に委ねることで不都合は生じておらず、新たな事務体制の構築の必要性は感じていません。

9. 情報開示

財務情報は、日本協会の機関誌とホームページを通じて会員はもとより社会へ広く開示しています。

役職員の選任規定は、前述した委員会、理事会、総会などの場で明示しており、組織内では共有されていますが、ガバナンスコードで共通的な事項が示されれば、それを踏まえて対処したいと考えます。

10. 利益相反ポリシーの作成等

利益相反ポリシーの作成や利益相反検討委員会の設置も、社会を賑わしたスポーツ界の不祥事に鑑み盛り込まれた事項と思いますが、日本協会にとってその必要性があるかどうかは今後とも組織内で協議し、ガバナンスコードへ具体的な内容が記述されれば、その内容を踏まえて対処していきたいと思えます。

11. 通報制度の構築

現在の事務体制で地方協会や全国の会員からの各種照会、意見具申などに対応していますが、これに加え、通報窓口を別途設ける必要があるほどの不適切な事例が生じるようになった場合には、当然通報制度の整備を図るべきであることは言うまでもありません。その時は適切に対処したいと考えます。

12. 懲罰制度の構築

13. 紛争解決制度の構築

14. 危機管理、不祥事対応体制の構築

上記の3項目については、いずれも10と同様の考え方です。

15. 地方組織への指導助言、支援、連携強化

定款上、日本協会と地方協会は上下関係にはありませんが、スポーツ庁をはじめ中央のスポーツ機関・団体などの動向把握や各種情報の入手などにおいて日本協会は地方協会より優位な立場にありますので、指導助言や支援、連携強化などの機能は適切に果たしていきたいと思えます。